

## 中期経営計画「2030 Vision: Shift the Phase」説明会に関する主なご質問

- Q: 建築用ガラス事業の2027年3月期の営業利益率の目標は12%だが、これは欧州景気の回復と太陽電池パネル用ガラス生産設備への転換により達成可能か？
- A: はい、基本的には達成可能ですが、これらに加え、Low-e ガラスや複層ガラスなどをはじめとした戦略製品の生産に関してキャパシティーとケイパビリティの向上を進め、営業利益率の目標達成を目指します。
- Q: 自動車用ガラス事業の2027年3月期の営業利益率の目標は5%と、2024年3月期が2.7%だったことを勘案すると現実的な目標であると考えている。ただ、5%は少し物足りないが、長期的な目標はあるか？どのような戦略で営業利益率を改善していくか？
- A: 営業利益率5%はあくまで通過点であり、長期的にはそれ以上を目指します。戦略については、継続してADAS（先進運転支援システム）やHUD（ヘッドアップディスプレイ）に重点的に取り組んでいこうと考えており、キャパシティーが不足している拠点等へは設備投資を実施していく予定です。また、ルーフライトも大型化や機能化が進んでおり、こちらにも投資を行い、収益性を高めていきます。
- Q: 2027年3月期の財務目標数値として営業利益640億円を掲げているが、中期経営計画初年度である2025年3月期の営業利益予想は370億円である。どのようなペースで目標に到達していく予定か？
- A: 太陽電池パネル用ガラスが大きく貢献する計画であり、米国オハイオ州ロスフォードでの窯の転換が2025年3月期に完了し2026年3月期から通期で収益に貢献するため、2026年3月期の後半から営業利益が大きく改善してくる見込みです。また、戦略的な製造設備の入れ替えや転換などのポートフォリオ変革による効果も2026年3月期頃から発現し始める予定です。
- Q: 主力の成長事業として太陽電池パネル用ガラスが位置付けられると思うが、中期経営計画期間での成長率はどの程度を想定しているか？
- A: 具体的に回答することはできませんが、太陽電池パネル用ガラスの生産ラインとして2024年3月期に4窯稼働していたものが、2027年3月期には2窯増加し6窯稼働している想定です。
- Q: A種種類株式の償還について「中計期間後半のサステナブルな財務状況に応じて判断」と説明があったが、まずはインフレ等に伴う金利上昇リスクに対応して有利子負債の返済を優先するのか？またA種種類株式の償還は具体的にはどういった基準に達したら実施するのか？
- A: 当面は有利子負債の返済を優先していきます。A種種類株式の償還については、有利子負債を削減し金融費用が低下した段階で、収益性やキャッシュ創出力、財務基盤の安定などを総合的に勘案し判断します。